

令和2年度

自己評価

川 村 幼 稚 園

川 村 小 学 校

川村中学校・川村高等学校

令和2年度 自己評価

川村幼稚園

1 学校教育目標

- 豊かな「こころ」
- のびやかな「からだ」
- 工夫する「あたま」

2 本年度の重点

- (1) 集団の中で伸びやかに
- (2) 始めの一步を緩やかに
- (3) 行事を通して健やかに

3 評価表

* 評価基準 (A : 十分達成している B : おおむね達成している C : やや不十分である D : 不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 幼稚園運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> ・ 学園経営理念、方針 ・ 職務分掌組織 ・ 職員会議等の運営 	C	成果：少数ではあるが、組織としての機能を保つ職務分掌が提示できた。 課題：目標を明確にしたものの、新型コロナウイルス感染拡大防止にともない行事等がこれまで同様に運営できなかった。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> ・ 研究組織、計画 ・ 保育改善への取組 ・ 研修会への参加 	B	成果：休園期間、誕生会など工夫を凝らし保護者に届けるよう職員間での情報共通化を図った。 課題：個人研修の参加も、見合わせた令和2年度であった。
	③保健・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保健計画、安全計画 ・ 安全点検 ・ 緊急時の対応 	B	成果：定期的な安全点検の実施を行い、遊具をより活用できるようにした。各校とともに、オンラインによるAED実技研修やエビペン対応訓練などを実施した。 課題：例年のことながら緊急時等の対応マニュアルを見直し、様々な角度からの訓練を行うよう設定していく。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> ・ 個人情報の管理保護 ・ 施設設備の管理 ・ 施設の有効活用 	A	成果：個人情報の管理について、意識が高まり大きな問題もなく日々過ごしている。 課題：遊具等、施設設備の安全な活用ができる環境づくりに努めた。
	⑤一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育公開の実施 ・ 幼稚園情報の発信 ・ 幼・小・中・高の連携 	B	成果：幼稚園からの情報として、「鶴友」への提供に努めている。また、園だよりの充実を継続している。 課題：小・中・高との連携を心がけてはいるが、年齢差が激しいのは変わらず、なかなか実践が難しい。
II 保育活動に関するもの	⑥保育目標・保育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保育目標の周知 ・ 保育計画の作成 ・ 保育活動の評価 	B	成果：学年・学級の幼児の実態に基づく指導ができた。(体操教室も充実し、新型コロナウイルス感染拡大防止のための規制もあるものの園児は笑顔で参加している。) 課題：基本的な生活習慣の日々徹底に努めていく。
	⑦保育指導	<ul style="list-style-type: none"> ・ 指導計画の立案 ・ 指導方法の工夫改善 ・ 評価、評定の工夫 	B	成果：個々の研修が保育改善に活かされている。 課題：評価についても、今後更なる相互理解を深め、工夫・改善を進める。

Ⅲ その他	⑧三位一体の教育	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 ・幼児理解 ・コミュニケーション 	B	<p>成果：日々保護者との連絡（送迎の時の利用や電話等）を、丁寧に親身になって対応するよう心がけてきた。ただし、行事そのものの中止など、これまでのように密な接触ができなかった。</p> <p>課題：幼児理解を深め、保護者からの信頼をより深めていきたい。</p>
	⑨防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・避難訓練等の実施 ・伝達システム 	B	<p>成果：訓練後の反省が生かされ、安全への意識が高まってはいるものの、様々な角度からの取り組みが十分でない状況であった。</p> <p>課題：避難訓練時の避難経路について再検討し、より安全・安心を確保する。</p>
	⑩給食指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理 	A	<p>成果：アレルギー対策は、学園の指針に基づき、確実に対応できた。ただし令和2年度は、給食対応時期が短く（分散登校・自由登校など）全く問題はなかった。</p> <p>課題：安全・安心な給食指導の充実に向けて、更なる工夫・改善に努めていく。</p>
	⑪保育後の活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・預かり保育の運営 ・ASの運営 	B	<p>成果：状況を鑑み、11月中旬よりおやつなしで15時30分までの限定で取り組み始めた。コロナ禍による身辺での環境変化のためか、利用者数には増加傾向が見られる。</p> <p>課題：年少も参加できるAS水泳の開講ができなかったのは、保護者のニーズに答えられていない点と言えるが、感染防止予防策であるとの理解は得られていると思われる。</p>

4 総合評価

- * 年間保育計画に基づき、月間目標を柱とした学年・学級経営が推進され、職員の共通理解のもと、各学級で明確な目標に向かい日々の保育活動を継続することができた。
- * 特色ある教育活動として、与えられた限られた環境の中で年齢に即した活動を展開することを心掛け、新型コロナウイルス感染拡大防止に努め、何とか大きな問題もなく1年間を終えることができた。

5 来年度の改善策

- * 園児一人一人の成長の度合いを見極め、個々の成長を助長するような声掛けをはじめとする保育展開の更なる向上を目指していく。先の見えない生活ではあるものの、今できることに精一杯力を注ぎたい。
- * 保護者の求めている保育形態を追求し、更なる保育の充実、質の向上にあわせて、預かり保育・AS運営に力を注ぎ、保育者の信頼を高めるようにしていく。また、「ウィズダムアカデミー目白校」を利用する度合いも益々増加しているため、これまで以上に連携を確実なものとして、保護者からの信頼に応えていく。
- * 令和元年度卒業記念としての、安全安心、かつ躍動的な園庭の増築が終了したので、その活用を十分検討し、有効利用を図るよう工夫したい。

令和2年度 自己評価

川村小学校

1 学校教育目標

生き生きとした子（やさしい心）

健やかな子（じょうぶな体）

自ら学び自ら考える子（かしこい頭）

2 本年度の重点

3本柱の構築

(1) 英語教育（実用英語技能検定奨励）

(2) 水泳指導（6年間の目標設定）

(3) 情報教育（5年生iPad導入）

3 評価表

* 評価基準（A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である）

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営理念、方針 校務分掌組織 職員会議等の運営 	B	<p>成果：今後も組織が活きて働く校務分掌の改善をし、各々の仕事分担が分かり易いものとなった。</p> <p>職員会議の活用が、定着してきた。</p> <p>課題：学校経営理念、方針等継続実践の方法を改めて見直しを図りたい。</p>
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画 授業改善への取組 研究会への参加 	B	<p>成果：オンライン授業を通して個々の授業を客観的に見ることができ、大変良い経験となった。</p> <p>課題：目標（三本柱）が明確になったが、水泳授業が新型コロナウイルス感染拡大防止のため実施できなかった。</p>
	③保健・安全管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健計画、安全計画 安全点検 緊急時の対応 	B	<p>成果：定期的な安全点検およびヒヤリハットの実施により危険個所の指摘と修理がスムーズに連携するようになった。</p> <p>課題：緊急時の対応（通学班下校・不審者対応訓練）やオンラインによるAED実技研修・エビペン対応訓練など、様々な取り組みがなされたが、集団行動が不可能な状況であったため、緊急時に誰もが対応できるよう引き続き力を注ぐ必要がある。</p>
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理保護 施設設備の管理 施設の有効活用 	A	<p>成果：個人情報の管理についての意識定着し、不安な状況は見当たらない。</p> <p>課題：メディアルームや情報機器のより一層の活用と、5年生、6年生そして4年生のiPad活用を充実させたい。</p>
	⑤一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開の実施 学校情報の発信 小・中・高の連携 	B	<p>成果：例年の形式では不可能となった学校説明会ではあったが、オンラインに切り替え現時点でできることに力を注ぐことができた。</p> <p>課題：小中高の連携が拡がりを見せてはきたが新型コロナウイルス感染拡大防止の取り組みが優先される中、令和2年度は足踏み状態であった。</p>

II 教育活動に関するもの	⑥教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> ・教育目標の周知 ・教育計画の作成 ・教育活動の評価 	B	<p>成果：学校生活に様々な規制が生じた中、それぞれが基本的な生活習慣（挨拶、廊下歩行等）を心掛け生活することができていた。</p> <p>課題：誕生会でやってきた「月間目標」に関する指導の継続を、学年、学級での指導、徹底に切り替えさらに検討していく。</p>
	⑦教科指導	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導方法の工夫改善 ・評価、評定の工夫 	B	<p>成果：オンライン配信が、研究授業同様それぞれの授業改善に活かされた。</p> <p>課題：評価（通知表を含む）について、数字では、はっきりとした成果を認めるまでには至っていない。</p>
	⑧道徳・特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・授業の充実 ・児童会活動の活性化 	A	<p>成果：講堂での全体活動ができなかったため月間目標の掲示と学級活動のみで行われた。また、教科書の利用がなされた。</p> <p>課題：道徳教育の評価等、校内で話し合い基準を定めたが、通知表評価はなされなかった。</p>
	⑨夢科学習	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・指導内容の充実 ・指導方法の工夫改善 	C	<p>課題：残念ながら、中止とせざるを得なかった。復活した時に活かせるよう、今後も継続した研磨が必要である。</p>
	⑩児童指導	<ul style="list-style-type: none"> ・組織的な生徒指導 ・問題行動への対応 ・教育相談 	B	<p>成果：毎週実施される学年会での潤滑な情報交換が、年度を重ねさらに有効活用されている。</p> <p>課題：「学校のきまり」にそって、共通理解のもとさらに協力して指導を進めていく。</p>
III その他	⑪三位一体教育	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者との連携 ・児童理解 ・コミュニケーション 	B	<p>成果：保護者との連絡（連絡帳や電話等）が丁寧に行われた。ただし、来校しての行事が全く実施できなかったため、今後の対応が大きな課題となった。</p> <p>課題：児童理解を深め、不登校のない学校生活を構築する。</p>
	⑫英語教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・各学年の実践 ・英検対策講座 	B	<p>成果：英検受験も励みとなり、英語活動への理解と関心が深まった矢先、英検受験の準会場としての利点が欠如したため、結果は少々下降している。</p> <p>中学校校内進学特待生制度の利用者が2名であった。</p> <p>課題：英語検定へのチャレンジ層を厚くしたい。</p>
	⑬防災教育	<ul style="list-style-type: none"> ・指導計画の立案 ・避難訓練等の実践 ・伝達システム 	B	<p>成果：小・中・高の40班による全校通学班下校の体制は整えたものの、実際の訓練はできていない。</p> <p>教室移動の際は、必ず防災頭巾を持つよう徹底。</p> <p>課題：避難訓練時の避難経路については、さらに万全な体制を構築する。</p>
	⑭会食指導等	<ul style="list-style-type: none"> ・安心安全への対応 ・アレルギー対策 ・環境衛生の管理 	A	<p>成果：アレルギー対策は、家庭との協力を得てお弁当対応の期間も確実に対応できた。</p> <p>課題：今後も、会食指導の充実に向けて、教室内の配膳およびマスク着用、私語を慎むなど指導を統一し、年齢と状況に即した指導と、工夫・改善に努める。</p>
	⑮鶴友会活動等	<ul style="list-style-type: none"> ・クラブ活動の運営 ・放課後活動の運営 ・ASの運営 	C	<p>課題：令和2年度は、鶴友会活動の実施ができなかった。</p> <p>限られた時間の中で、充実した活動となるよう精選していく。</p> <p>ASも通常の活動が2学期からとなり、科目も厳選しての実施となった。</p>

4 総合評価

- * 新型コロナウイルス感染拡大防止に翻弄されたが、その中でも学校経営計画に基づく指導を今一度見直し、月間目標を柱とした学年・学級経営が推進されるよう、各学級で明確な目標に向かって、それぞれの教員が、児童のための教育活動を推進することができた。
- * 特色ある教育活動として、各学年での蓼科学習・情報教育・英語教育・水泳教育の充実を目指しながらも、不可能という言葉に戸惑うことが多かった。今後のより早い活動再開を念頭に、日々児童の主体的活動を促す要素を見極める努力を怠ることなく継続することが望ましいと思われる。

5 来年度の改善策

- * 「学校のきまり」として、①学習習慣の確立 ②基本的生活習慣の確立に向けてのきまりの徹底指導を日々重ね、さらに落ち着いた学校生活を目指す。
- * 一人ひとりの笑顔が輝くよう、担任を中心に学年や教科担当と連携する中で児童理解をより一層深め、楽しい学校生活と保護者の信頼を不動のものとする。
- * 放課後活動充実のため、ウィズダムアカデミー目白校の利用者が増加していることを踏まえ、今後も連携に対する理解を推進し、安全な放課後の時間を提供していく。
- * 算数セミナー（4・5・6年生希望制）と、英検受検の奨励を継続することによって、内部進学希望者数の確保に努める。
- * 必修クラブの活動の更なる活性化を目指す。
- * オンライン授業を行ったことで、6年間を見据えた情報教育カリキュラムの作成に繋げていきたい。令和3年度は、4年生へのiPad普及に力を注ぐとともに、オンライン授業態勢も強化していく。
- * 3年生以上の英語授業を週3時間とし、教材変更をしたことに対して、更なる有効活用を行い英語科の強化に努める。

令和2年度 学校評価報告

川村中学校・高等学校

1 学校教育目標

豊かな感性と品格

自覚と責任

優しさと思いやり

2 本年度の重点目標

(1) 知・徳・体の調和の取れた教育の実践

(2) 三位一体の教育を実践

(3) 中高6年間を見通した教育の実践

(4) 一人一人を生かす教育の実践

(5) 進路を見据えた教育の実践

3 評価表 *評価基準 (A:十分達成している B:おおむね達成している C:やや不十分である D:不十分である)

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	<ul style="list-style-type: none"> 学校経営理念、方針 校務分掌組織 職員会議等の運営 	A	成果：組織が活きて働く仕事分担となっている。 課題：学校経営計画の紙面の作成をして、計画に基づき実施していく。
	②研究・研修	<ul style="list-style-type: none"> 研究組織、計画 授業改善への取り組み 研究会への参加 	B	成果：教員一人一人がオンライン授業への研鑽を積むことができた。 課題：研修会への周知はされているが、コロナ禍参加ができない状況であった。
	③保健・健康管理	<ul style="list-style-type: none"> 保健、安全計画 安全点検 緊急時の対応 	A	成果：危機意識をもって保健指導が成された。 課題：新型コロナウイルス感染症への予防対策に注意を払い、安全点検に甘んずることなく、今後も引き続き様々な状況を想定して見直しを図っていく。
	④情報管理・施設設備管理	<ul style="list-style-type: none"> 個人情報の管理保護 施設設備の管理 施設の有効活用 	B	成果：個人情報の管理については良好であった。管理および行き届いた施設管理ができた。 課題：施設管理については、メンテナンスを必要とする箇所がいくつかあり、引き続き改善を図っていく。
	⑤一貫教育	<ul style="list-style-type: none"> 学校公開の実施 学校情報の発信 小中高の連携 	C	成果：ホームページ等を通して情報の発信をすることができた。 課題：コロナ禍、クラブ活動及び算数セミナーの実施を見合わせた。引き続き連携を図るべく検討していく。
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 教育目標の周知 教育計画の作成 教育活動の評価 	B	成果：教育目標に基づき、教員一人一人が意識をして取り組んでいる。 課題：日々の学校生活の中で、生徒に自覚を促すよう工夫を凝らして指導する。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫改善 評価、評定の工夫 	B	成果：各教科で話し合いながら、オンライン授業の充実を図った。 課題：新しい教材やICTを活用して、深い学びとなるようにしていく。また、評価方法については引き続き検討・改善をしていく。

II 教育活動に関するもの	③道徳・特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 授業の充実 生徒会活動 	B	<p>成果：コロナ禍、生徒の主体的な活動を十分に実践していくことができなかった。</p> <p>課題：行事だけではなく、学校生活全般を活性化させるための主体的な活動を考えさせ、実践させていく。</p>
	④総合的な時間の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫改善 	A	<p>成果：学年毎のテーマに基づき、豊かな発想を導きプレゼンテーション力をつける指導ができた。</p> <p>課題：個々が問題意識を持って深い学びができるよう指導する。</p>
	⑤生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対応 教育相談 	B	<p>成果：学年会を通して、生徒一人一人への共通理解をして迅速な対応と指導ができた。</p> <p>課題：生徒の問題に対する共通理解と寄り添った指導の充実を一層図るよう努める。</p>
III その他	①三位一体の教育	<ul style="list-style-type: none"> 保護者との連携 生徒理解 コミュニケーション 	A	<p>成果：保護者との連携を図りながら、生徒一人一人への指導ができた。</p> <p>課題：指導に対する保護者への理解を図り、スピーディーな対応をしていく。</p>
	②キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 中学3年生の実践 高校1年生の実践 	B	<p>成果：中3と高1では、系統立てたキャリア教育を実践することができた。</p> <p>課題：一貫校としての進路指導の充実および高校生の進路指導の充実を図っていく。</p>
	③防災教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 避難訓練等の実践 伝達システム 	A	<p>成果：様々な想定に基づく訓練を、コロナ禍において改善しながら実施することができた。</p> <p>課題：危機意識を持った訓練となるよう工夫をする。</p>
	④学校給食（会食）	<ul style="list-style-type: none"> 安全安心への対応 アレルギー対策 環境衛生の管理 	A	<p>成果：アレルギー対応と新型コロナウイルス感染症予防への対応が丁寧かつ正確に行われた。</p> <p>課題：配膳時を含めた会食指導への更なる充実を図っていく。</p>
	⑤鶴友会活動（部活動）	<ul style="list-style-type: none"> クラブ活動の運営 クラブ活動の指導 クラブ合宿 	B	<p>成果：コロナ禍においても生徒の主体的なクラブ活動が行なわれていた。</p> <p>課題：外部指導者による技術指導によりクラブ活動の充実を図ると共に活動日数や引率の適正化のもと教員の負担を軽減していく。</p>
	⑥鶴友会活動（諸係り）	<ul style="list-style-type: none"> 諸係りの運営 活動内容の充実 活動内容の改善 	B	<p>成果：仕事内容についての分担化を図って活動をしていた。</p> <p>課題：諸係の各部会や各リーダー会の実施により主体的な活動を指導する。</p>

4 総合評価

- * 教員全員が共通認識をもって各学年・学級目標に基づく指導ができた。
- * 新型コロナウイルス感染症に対する啓蒙指導が成され、安全・安心な学校生活を送ることができた。
- * 教員の共通理解のもと、改善を図りながら生徒の主体的な取り組みを支援することができた。
- * 三位一体の教育を実践することができた。
- * 新型コロナウイルス感染拡大防止への対応については引き続き注意深く取り組んでいく。

5 来年度への改善策

- * 指導要領の改訂に向けて、情報の収集と研修・研鑽を積んでいく。
- * 授業の充実を図るため、授業改善を意識して研修と研鑽を積極的に行う。
- * 小中高の連携を図ることで、一貫校としての特性を活かした教育の推進を図る。
- * 一人一人の生徒が持つ能力の助長を図るための授業展開を行う。
- * 鶴友会クラブならびに鶴友会諸係において、生徒の主体的な活動を支援する。
- * 一貫校としての進路指導および高等学校の進路指導の充実を図る。
- * 新型コロナウイルス感染拡大に伴うオンラインによる授業を実施してきたが、今後もIT機器を活用した授業の充実および教員一人一人のスキルアップを図っていくことにより、多様な学び方を通して、生徒一人一人の学力の助長を図っていく。